

そよかぜだより

第86号

発行 2009. 7. 19

毎月1回発行
社会福祉法人
そよかぜ

連絡先

ひばり園 578-0855
FAX 578-0466
くれよん 578-2575
つくしの家 578-0855
あおぞら 570-6110
エール 570-1233

資源回収時のご連絡は
「ひばり園」へ

政府・与党、自立支援法改正案を国会に提出 自己負担水準は変わらず？

所得保障・障害基礎年金引上げ案は未定

政府・与党の障害者自立支援法改正案がいま国会に提出されています。改正のポイントは、障害者が福祉サービスを利用する際、利用料の原則1割を支払う「応益負担」を見直して、支払い能力に応じて支払額を決める「応能負担」とするものです。

い見通しだそうです。この点について厚労賞は「現在でも各種軽減措置により、実質的には支払い能力に応じた負担になっているため」と説明しています。

これに対して民主党は「法律の条文を変えるだけで、実際の負担は変わらない。障害者に対してそんな失礼な話はない」と反対しているため、法案成立のめどは立っていません。

せん。こんごの政局次第ですが、ご承知のようにいま政界は激動期に入りましたので成り行きは不透明です。

06年に施行された自立支援法は3年後に見直しする約束でした。「低所得の人が必要なサービスを利用できない」との批判が相次いだため

にこのたびの改正案になりました。自立支援法成立の際の審議会の代表者・京極高宣氏は「障害者自身もお金を出すことで、税金を払う国民の納得が得やすくなり、サービス利用の権利も確立される」と本人負担のメリットを強調しています。一方では「そもそも生活保護費程度の収入しかない人たちから費用を徴収すること自体が間違い」とする意見もありました。

そよかぜ各事業の 夏休みの予定

ひばり園・あおぞら

8月8日(土)～16日(日)

つくしの家

8月8日(土)～16日(日)

リサイクルショップ くれよん

8月11日(火)～16日(日)

羽村市障害者就労支援センター

エール

8月14日(金)～16日(日)

以上の通りです。

よろしく願いいたします。

また、「所得保障があれば、障害者自身がお金を出すことは正しい」とする意見に対しては、工賃を倍増させる5カ

ご協力ありがとうございました。 6月の募金 33,803円
(順不同) 平成21年4月～6月の合計 104,014円

平岡 和子	様	エイ・アイ	様	藤野 和子	様
宮沢 啓	様	加部 妙子	様	北野 浩美	様
帯刀 進	様	臼井 道代	様	田中 明子	様
とまと美容室	様	大野 元雄	様	森田 勝	様
山下 暉枝	様	井上 誠一	様	渡辺 時三	様
濱野 岬	様	山崎 六雄	様	斉藤 忠	様
若松 時義	様	天満 喜代子	様	清水 賢	様
下田 コウ	様	竹内 照夫	様	清水 知子	様
榎本 正代	様	清水 キヨ子	様	長谷川 キヌ子	様
松岡 竹子	様	尾又 恭子	様	関谷 孝子	様
角野 克子	様	角野 満壽子	様	大野 素子	様
国本 昭治	様	渡辺 四郎	様	田中 稔	様
吉野 満里子	様	永岡 智恵子	様	桜沢 喜作	様
山影 幸子	様	阿部 郁子	様	アバンバンディックス	様
ヘアサロンカワノ	様	袴田 実	様	本間 正彦	様
村野 理子	様	小沢 達子	様	平野 嘉子	様
関村 理	様	橋本 亜紀子	様	山田 隆章	様
関村 英希	様	匿名様(5,220円)			

社会福祉法人 そよかぜの

《資源回収》に

ご協力をお願いします
新聞、雑誌、ダンボール

(ボロは扱っていません)

6月は14,990tでした。金額は220,733円となりました。
この収益は、社会福祉法人そよかぜの運営資金になります。
みなさまのご協力ありがとうございました。

8月は第3日曜日16日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

ご連絡は、ひばり園へ
羽村市五ノ神2-6-7
042-578-0855

くれよん6月の売上げ
965,420円でした。

羽村市内の小学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さっています。ありがとうございます。

ギャンブル依存症（パチンコ）が拡大中

家族を巻き添えにするおそろしい病気

被害を受けやすい障害ある人

パチンコによるギャンブル依存症が、いま国内に急激に広がりがつあつて、対策を急ぐ声が各方面から上がっています。そして、障害のある人がその被害を受けやすいという指摘があるので、私たちも気にかかるところです。

資源回収のために車に乗って町内を回っていると、パチンコ店の前に10時の開店前から大勢の人が開店を待って並んでいる姿をよく見かけます。この人たちはウィークデーの朝から今日も一日パチンコをするつもりなのかな、と思います。定年退職をして暇つぶしに遊びにきているのは明らかに様子が違って、どの人もみんな働き盛りの年頃だし、中には若い人もたくさんいるようです。開店前から並ぶのは前日の玉の出具合を知っていて、お目当ての台を確保するためだそうです。ということは、この人たちは毎日パチンコをしていること

になります。もしそれで立派に生活できるなら、働かなくても一生遊んで暮らせるような資産家ということになりますが、どう見てもそのような人は見えません。どのような生活しようとするかは個人の自由ですから、それに文句をいうつもりはありませんが。

しかし、日本全体のパチンコ産業の年間売り上げは30兆円というものすごい金額です。数年前に国民総医療費が30兆円を超えたと大さわぎになりました。高齢化でさらに医療費は増大しそうなので、このままでは国の財政が圧迫されると政府もやつきになって医療費を削減しようとしています。一方でそれと同額のお金がパチンコ店に流れているのが現実です。このことについてある政治家が「制度改革で医療費が月額千円値上がりするとさかんに文句を言う人が、その何倍ものお金をパチンコに使っている」と嘆いて

いました。アルコール依存症ならわかりますが、パチンコが依存症になるとするのは、ちよつとわかりにくい話です。この点について専門家は「大当たりして『やったー』と喜ぶ快感を何回か経験すると脳が覚えるようになります。アルコールを飲んで酔酩しストレスから解放される快感を繰り返しているうちに依存症になると原理は同じです。ギャンブル依存症になると個人の意志だけでは決して治らないこともアルコール依存症と同じです」と説明しています。

ひばり園やおぞらの利用者の中にもパチンコが好きな人は何人かいますが、依存症になるほどではありません。しかし残念なことに、本人はパチンコを全然しないのに、家族が依存症気味という人が複数います。その家計は苦しむ本人のわずかな給料が家族の生活費です。これ以上詳しいことは書けません、そんなきびしい生活環境を普通だと思つて何も文句を言わない本人をみていると、こちらが

切なくなります。

アルコール依存症の患者が、退院後また飲み始めるのを防ぐために「断酒の会」とか「禁酒友の会」などの自助グループはたくさんありますが、ギャンブル依存症についても最近になって自助グループが各地にできるようになりました。当事者たちが共同生活をしながら回復を目指します。

横浜市でそのような施設を運営している施設長の話を要約して紹介します。「家族の説得で嫌々入所した人でも、3カ月ここで暮らせば考え方や生き方を変えようとする。しかし、3カ月過ぎても変化しない人が7人いた。次第にその人たちの共通点が見えてきた。人付き合いがうまくいかず学校や職場で生きづらさを感じていた若者たちだ。精神科の医師に診察してもらおうと全員がアスペルガー症候群だった。対人関係が苦手なパチンコに熱中し依存症になった人に、集団のプログラムを押し付けてもうまくいかない。」

パチンコは相手が器械ですから苦手な対人関係なしで集

中できます。とくに最近のパチンコは大型液晶画面で、人気アニメの主人公が勝てば大当たりとゲームの要素を採り入れファン層の拡大を狙っているそうです。それが別のタイプの依存症を生み出しています。発達障害の人は依存症になりやすく、治りにくいのです。

『ギャンブル依存と戦う』という本を出版した作家で精神科医の帚木蓬生（ははきぎ・ほうせい）氏が新聞社のインタビューに答えた対談記事が先日掲載されました。それによると、氏が経営する依存症専門のクリニックには大勢の患者が訪れます。患者の平均年齢は39歳で、20歳前後から始まります。

使った額の最高は1億6千万円、2番目は1億1千万円という調子です。お姉さんという第2人に付添われてきた患者さんは、両親の退職金を全部つぎ込み、年金も担保に入れて借金、兄弟縁者への無心、それでも足りず消費者金融に手をだして借金地獄というありさま。弟は「兄貴、死んでくれ」といい、お姉さんはシク

シク泣いている。亭主に黙ってへソくりから尻ぬぐいしているのではれたら離婚になると。このように自分だけでなく親類縁者を巻き添えにして地獄につれていく恐ろしい病気です。

帚木氏によれば、病的ギャンブラーは批判ばかりされているので、耳はふさがつていてどんな忠告や脅しも逆効果、治療はまず患者の人間性の回復から始まり、たいへんな長期戦になるそうです。

パチンコ産業は日本独自のもので外国にはありません。日本では他の賭博行為は禁止されているのにパチンコだけは野放しです。パチンコのもう一つの怖さは貧困層を主なターゲットにしていることです。貧困層をさらに絞り上げてどん底に落とします。障害者を守るためだけでなく、国全体のためにパチンコという異常なギャンブルに対してなんらかの手を打つべき時ではないでしょうか。これを野放しにしたままで医療や福祉の充実を図っても、その努力はザルで水を汲むことになるのではないのでしょうか。